| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ソーシャル・キャピタルの測定（つづき） | スポーツ・趣味等活動への参加<br>職場同僚とのつきあい頻度<br><br>●信頼<br>＜一般的な信頼＞<br>一般的な人への信頼<br>見知らぬ土地での人への信頼<br><br>＜相互信頼・相互扶助＞<br>近所の人々への期待・信頼<br>友人・知人への期待・信頼<br><br>●社会参加<br>地縁的活動への参加<br>ボランティア・NPO・市民活動への参加 | 親戚・親類とのつきあいの頻度<br><br>●信頼<br>一般的な人への信頼<br><br>●社会参加<br>地縁的な活動への参加<br>スポーツ・趣味・娯楽活動への参加<br>ボランティア・NPO・市民活動への参加<br>参議院選挙の投票<br>国政選挙・地方選挙の投票 | 親戚の住む範囲<br><br>＜社会活動等の参加＞<br>地域活動への参加<br>政治の話の頻度<br>政治への参加度<br><br>●社会的信頼<br>＜相互扶助＞<br>心配事等の相談できる人の有無<br>看病等をしてくれる人の有無<br><br>＜相互信頼＞<br>地域の人々に対する信頼度<br><br>落とした財布が戻る確率<br><br>＜問題解決＞<br>地域内での争いの解決能力 | スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況<br><br>●社会参加<br>地縁的な活動への参加<br>ボランティア・NPO・市民活動への参加状況 | ●社会参加<br>地縁的な活動への参加<br>ボランティア・NPO 活動への参加 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ソーシャル・キャピタルの測定（つづき） | | | ＜一般的信頼＞<br>見知らぬ人への信頼度<br><br>●互酬性<br>＜地域貢献＞<br>地域活動への労働提供<br><br>＜地域共同活動＞<br>農業関連地域共同活動<br>農村関連地域共同活動<br>農業用水路の管理活動<br>農道等共用道路の管理活動 | | |
| 考察 | ●SC が豊かである地域（都道府県単位）ほど失業，犯罪率が低く，出生率が高く，平均余命が高い。<br><br>●SC の蓄積は，将来に向けて「活力ある地域」「安心・安全な地域」を形成するための要素になり得る可能性を秘めている。 | ●SC は，生活上の安心感を醸成する可能性がある。<br><br>●SC とコミュニティの評価の間に統計的に有意な相関関係を認めなかったが，今後，地域特性を踏まえた丁寧な考察が必要。 | ●SC が農業生産活動や集落協働活動により形成されている現状が示された。<br><br>●そうした中で，SC の世代間継承や共有を可能とする取り組みが必要である。 | ●SC は，教育，ワークライフバランス，経済格差の是正，企業活動の 4 分野の各指標と相関関係を認めた。<br><br>●今後は SC を活用した成功事例を蓄積していくことが具体的な政策展開を行っていく上で重要である。 | ●地縁的な活動とボランティア，NPO 活動の接点の創出支援が SC の向上につながる可能性がある。<br><br>●地縁的な活動を地域イベント型から問題解決型の要素を含むよう検討することが有用である。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 考察（つづき） | | ●SC の形成（ボンディング・ブリッジング）を整理し，政策的議論を踏まえていくことが有用である。 | ●合わせて，施策では，優れた SC を壊さないための配慮が必要である。 | ●なお，政策上の配慮として SC を壊さない（維持する）ことへの配慮が必要である。 | ●地域社会で子どもを育んでいくことは，ひいては将来の地域の SC の維持・向上につながる可能性がある。 |

注 1）SC：ソーシャル・キャピタル，日本総研：株式会社日本総合研究所

資料 1-2　国外におけるソーシャル・キャピタルに関する定量評価の試み [1)]

| | アメリカ | イギリス | オーストラリア | スウェーデン | OECD |
|---|---|---|---|---|---|
| **背景・経緯** | ● 研究者が主体となり SC の定量的・経年的変化を議論。<br><br>● General Social Survey 等より，関連する項目を抽出して議論を展開。<br><br>● 政策展開を意図して SC コミュニティベンチマークサーベイ = social capital community benchmark survey を 2000 年，2006 年に実施<br><br>● The Bureau of Labor Statistics は全米人口現況調査（Current Population Survey）補足調査（Supplement）として調査を実施（2011 年）。 | ● ブレア政権下の公共セクター肥大化，犯罪件数や失業率の増加という社会的背景の中で民間企業や市民参加を促す柱として SC 概念を利用。<br><br>● 統計局（Office of National Statistics）の主導により SC の working group 開催や各種調査の調整を行うとともに 2003 年には測定用ツールを提案。提案ツールは，同年，統計局 Omnibus Survey で試行。 | ● 2001 年に政府統計局 SC working group を設立。<br><br>● 健康，教育，安全への SC の効果検証と政策への反映を主な目的として展開。<br><br>● 2006 年より，Australian Bureau of Statistics のホームページ内に SC に関連する情報を整理（Topics @ a Glance – Social Capital）。<br><br>● General Social Survey, Time Use Survey, Employmen Arrangements, Retirement and Superannuation 等で SC 関連調査を実施。 | ● 政府による具体的な取り組みは行われていない。<br><br>● 研究者が既存の統計データより関連する項目を抽出し議論を展開。<br><br>● その背景には，各種統計データを研究者が利用することが可能な環境が整っており，個人 ID によって統計データの連結が可能。 | ● 2001 年に CERI（Centre for Educational Research and Innovation）より「The Well-being of Nations: The Role of Human and Social Capital」を公表。<br><br>● SC を定義するとともに SC の役割や，測定方法に関するワークショップを開催。<br><br>● これまで実施されてきた SC に関する調査のデータバンク構築，政策的観点に基づく SC 調査モジュールとガイドラインを提示（2013 年）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ●代表的な調査は，General Household Survey Trailer 2004/2005，Health Survey for England（2005 年），Survey for English Housing（2005 年），Home Office Citizenship Survey，Families and Chilrdren Survey Wave 7（2005 年），British Household Panel Survey 等で SC を含む調査を実施。<br>●2014 年より ONS Measuring National Well-being programme の一環として，SC の測定方法に関する検討を開始。2015 年中に最終報告を公表予定。 | | | |
| 主体 | 研究者 | 政府統計局，研究者 | 政府統計局 | 研究者 | OECD 統計局 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **これまで実施されてきた調査での評価指標** [2] | ●信頼，フォーマル・インフォーマルネットワーク，政治への関与等。 | ● 信頼，互酬性，社会的参加，市民参加等。 | ● 社会参加，市民参加，互酬性，ネットワークの種類等。 | ● 政治への関与。 | ● 2013 年に公表した報告書において 39 カテゴリーに基づく指標を提案（巻末資料 2 を参照）。 |

注 1） SC：ソーシャル・キャピタル

注 2） 各国が SC として使用している評価指標であり，必ずしも SC 指標として妥当であることを意味していない。本稿のレビューの意図は，研究成果を網羅的に把握することであるため，一覧として記載。

## 資料2　OECDソーシャル・キャピタルデータバンク

| 変数カテゴリー | 説明 | 該当する<br>質問数・調査数 | 関連<br>テーマ |
|---|---|---|---|
| 集団への参加<br>Associational Involvement | 団体，グループ，クラブなどの集団への活動的または非活動的（会費や会員登録のみの）参加。 | 質問数:160<br>調査数:30 | CE |
| 地域社会や近隣に対する態度・信念<br>Attitudes and Beliefs, Community & Local Area | 回答者の地域社会や近隣，その地域に住む人に対する印象。 | 質問数:37<br>調査数:8 | TCN |
| 家族や友人に対する態度・信念<br>Attitudes and Beliefs Friends & Family | 家族や友人関係一般に関する価値観や期待。 | 質問数:13<br>調査数:6 | TCN，PR，SNS |
| 政府や社会に対する態度・信念<br>Attitudes and Beliefs Government & Society | 政府を始めとする社会制度や社会における回答者自身の市民的役割に対する価値観及び期待。 | 質問数:32<br>調査数:12 | TCN |
| 市民活動（寄付も含む）<br>Civic Actions (including donations) | 金銭・金銭以外の寄付，リサイクル等を含む市民性のある活動。 | 質問数:72<br>調査数:8 | CE |
| 地域参画<br>Community engagement | 地域社会の活動，イベント，意思決定への参画。 | 質問数:34<br>調査数:10 | CE |
| 規範<br>Cooperative Norms | 回答者と他者の協調的な行動に関する価値観および期待。 | 質問数:13<br>質問数:3 | TCN |
| 望ましくない行為の経験<br>Experience of Corruption | 回答者自身の望ましくない行為の経験。 | 質問数：8<br>調査数：3 | TCN |
| 差別の経験<br>Experience of Discrimination | 回答者自身の差別や社会的排除の経験。 | 質問数：5<br>調査数：3 | TCN |
| 裏切りの経験<br>Experience of Dishonesty | 回答者自身の，他者から裏切り行為等を受けた経験。 | 質問数：10<br>調査数：3 | TCN |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 人間関係に対する意識<br>Feeling about personal relationships | 回答者自身の友人・家族・その他集団との人間関係の質に関する意識及び認識。 | 質問数：24<br>調査数：12 | PR，SNS |
| 一般的信頼<br>Generalized Trust | 他者に対する一般的な信頼。 | 質問数：22<br>調査数：19 | TCN |
| 回答者の正直さ<br>Honesty of Respondent | 回答者自身の正直さの程度。 | 質問数：8<br>調査数：2 | TCN |
| アイデンティティと帰属意識<br>Identity and Belonging | 特定の集団，地域や国家に対する帰属意識や，それらに属していることをどの程度誇りに思っているか。 | 質問数：19<br>調査数：8 | TCN |
| 政治や時事問題に対する興味<br>Interest in Politics and Current affairs | 回答者の政治や時事問題に対する興味の程度。 | 質問数：35<br>調査数：15 | CE |
| ネットワークの多様性<br>Network Diversity | 回答者自身と（民族，所得水準等）異なる社会集団に属する人との接触・面識に関する質問。 | 質問数：68<br>調査数：6 | PR |
| ネットワークの大きさ<br>Network Size | 回答者の友人の数（「親友の数」「職場以外で会う同僚の数」等）。 | 質問数：13<br>調査数：3 | PR，SNS |
| ニュースを読む（見る，聴く）機会<br>News Relationship (or Watching/Listening) | 回答者がニュースや時事問題を読む（見る，聴く）回数・頻度。 | 質問数：2<br>調査数：2 | CE |
| 政治的腐敗の認識<br>Percieved Corruption | 回答者の国や居住地域での汚職に対する認識。 | 質問数：10<br>調査数：4 | TCN |
| 公平性の認識<br>Percieved Fairness | 回答者が，大抵の人は公平であろうとしていると感じているか（一般的信頼に近いが質問文に「信頼」という言葉が使用されていない内容）。 | 質問数：9<br>調査数：7 | TCN |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 互酬性の認識<br>（一般的互酬性）<br>Perceived Helpfulness<br>(generalized Reciprocity) | 回答者が，「他者は誰かの役に立とうとする」とどの程度感じているか（一般的互酬性の概念に近い）。 | 質問数：5<br>調査数：5 | |
| 安全の認識<br>Perceived Safety | 近隣での安全，または安全一般に対する意識。 | 質問数：18<br>調査数：11 | TCN |
| 支援の認識<br>Percieved Support | 回答者が，頼れる誰かが存在すると感じているかどうか。 | 質問数：42<br>調査数：18 | SNS，PR |
| 政治的関与<br>Political Engagement | 回答者の政治的活動への参加，または政治的な目的を持つ組織内での活動。 | 質問数：54<br>調査数：19 | CE |
| 宗教への参加<br>Religious Participation | 回答者の宗教的活動への参加，または宗教組織内での活動。 | 質問数：9<br>調査数：8 | CE |
| 社会的接触（全般）<br>Social Contact (all) | 他者と直接会うか否かということを定義しない社会的接触全般。 | 質問数：12<br>調査数：7 | PR |
| 社会的接触（相手と直接会う接触）<br>Social Contact<br>(face-to-face) | 他者と直接と会うのに費やす時間。 | 質問数：62<br>調査数：23 | PR |
| 社会的接触（相手とは直接合わない接触）<br>Social Contact<br>(non face-to-face) | 回答者が相手とは直接会わない形で他者と接触する（インターネット，電話，手紙を書くこと等）ことに費やす時間。 | 質問数：53<br>調査数：17 | PR |
| 社会的孤立と孤独<br>Social Isolation &<br>Loneliness | 孤立や孤独に対する意識。 | 質問数：3<br>調査数：3 | PR，SNS |
| 人間関係の発生源<br>Sources of Personal<br>Relationships | 回答者が他者と会い人間関係を築く場所，またはそれらを目的として行う活動。 | 質問数：16<br>調査数：4 | PR |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 支援の発生源<br>Sources of Support | 回答者が様々な社会ネットワークの支援を期待する人物。 | 質問数：27<br>調査数：7 | SNS, PR |
| 提供される支援<br>Support Provided (including Unpaid work) | 回答者のネットワーク内にいる人に提供される無償の支援またはその他の形で行われる支援（金銭面，感情面等）。この文脈における無償労働は，団体やボランティア集団の中で無償労働を行うと定義されるボランティア活動とは異なる。 | 質問数：65<br>調査数：18 | SNS, PR, CE, TCN |
| 享受している支援<br>Support Received | 回答者が実際に享受している社会ネットワーク支援の種類。 | 質問数：5<br>調査数：3 | SNS, PR, CE, TCN |
| 寛容と差別<br>Tolerance and Discrimination | 特定の集団に対する回答者の寛容・差別意識，または回答者の一般的な寛容・差別意識を直接・間接的に評価。 | 質問数：79<br>調査数：13 | TCN |
| 制度に対する信頼<br>Trust in Institutions | 政府または非政府の様々な制度に対する信頼（政府，メディア，警察等）。 | 質問数：71<br>調査数：19 | TCN |
| 特定の集団・個人に対する信頼<br>Trust in Specified Groups/Individuals | 特定の集団・個人に対する信頼（特定の民族グループや近所の人に対する信頼等）。 | 質問数：28<br>調査数：11 | TCN |
| ボランティア活動<br>Voluntary Work | 団体や組織に属し，回答者が団体や組織の一員として行うボランティア活動とその活動を行う理由。 | 質問数：122<br>調査数：16 | TCN, SNS |
| ボランティア活動と技術・交流<br>Voluntary Work, Skills & Contacts | 回答者がボランティア活動への参加を通して得たと感じる技術や機会。 | 質問数：10<br>調査数：2 | CE |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 投票<br>Voting | 選挙への参加。 | 質問数：5<br>調査数：5 | CE |

## 資料3　人間関係の「見える化」

| 日時 | 相手の氏名 | 相手の年歳 | 相手の性別 | 相手の続柄 | 会った場所名 | 会った時間(分) | 会った理由 | 知り合いの期間(約) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

資料4　住民ニーズに基づく地域デザイン

図1　震災前の道路網に基づく基幹道路案

注：Open Street Mapより道路網データ，及び国土地理院が提供している標高データをダウンロードし，地理情報システム（GIS：Geographic Information Systems）上に展開。そして，基幹道路を復元し（必要に応じて延長・縮小），合わせて傾斜や各施設間等の距離関係を踏まえて復興における地域デザインの骨格を作成。

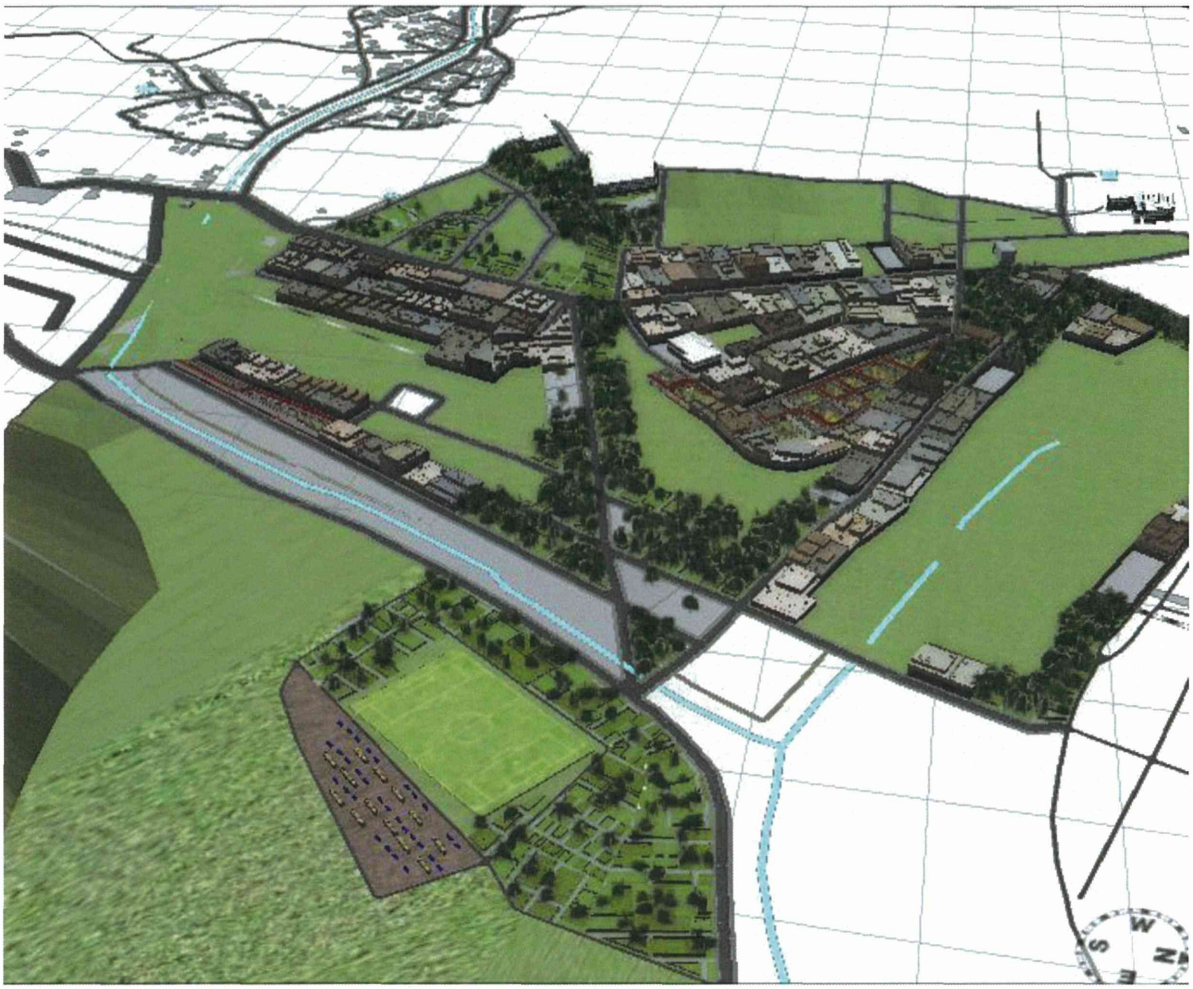

図2　図1を踏まえ住民ニーズを加えたデザイン

注：図1を基盤として，住民ニーズである中心部に幹線道路を設け，非常時には高台への避難路として活用するデザインである。このように，GIS及び都市景観モデリングソフトを活用することにより，より具体的なコミュニティデザインの議論が可能となるため，「何を，どこに，なぜ」という視点が明確になる。したがって，こうした全体像を理解した上で，個々のインフラの役割を検討していくことが復興段階において有益と考えられた。

## 資料5　Offece for National Statisticsが提案するソーシャル・キャピタル測定項目（4領域25指標）

### Ⅰ．人間関係 (personal relationships)

1. 1週間に最低1回は，友達や親戚，同僚たちと付き合いで会う人の割合。
2. 親しい友人が少なくとも1人はいる人の割合。
3. 日常的に近所に住む人々と立ち話をする人の割合。
4. ソーシャルネットワークに登録している人の割合。
5. 家庭生活における平均的な満足度。
6. 社会生活における平均的な満足度。
7. 常に，または，ほとんどの時間孤独を感じていた人々の割合（直近2週間）。

### Ⅱ．ソーシャルネットワークサポート (social network support)

8. 深刻な問題に直面した時に頼ることのできる配偶者，家族，友人がいる人の割合。
9. 一緒にもしくは別々に住んでいる病人，障害者，高齢者に対して，少なくとも１度は支援を行ったことのある人の割合。
10. 近所の人から物を借りたり，貸したりしたりする人の割合。
11. 別々に暮らす親や16歳以上の子供から，実践的，もしくは，経済的な支援を定期的に受けている人々の割合。

### Ⅲ．社会参画 (civic engagement)

12. 過去12か月においてボランティア活動をした人の割合。
13. 直近12か月において自身の地元地域の社会貢献活動に少なくとも一度は参加した人の割合。
14. イギリスの総選挙で投票した人の割合。
15. 直近12か月において少なくとも1度は政治的行為に参加した人の割合。
16. 政治に明らかに，とても，もしくはかなり関心を持っている人の割合。
17. 政治的，自発的，専門的もしくは娯楽的であるかを問わず，組織の一員となっている人の割合。
18. 地元地域に影響を及ぼす決定に自身が影響を与えることができるという考えに対して，とても賛成，もしくは，どちらかと言うと賛成という人の割合。

## Ⅳ．信頼・規範 (trust and cooperative norms)

19. 中央政府を信頼しているという人の割合。
20. ほとんどの人は信頼することができると言うであろう人の割合。
21. 近所に住むほとんどの人は信頼できると言うであろう人の割合。
22. 自身の周りに住む人達がその近所に住む人達を快く手助けするかという問いかけに，同意，もしくはとても同意する人の割合。
23. 暗くなってから地元地域を一人で歩くとき，安心して，もしくはとても安心して歩けるという人の割合。
24. 地元地域に属しているということをとても強く，もしくはかなり強く感じている人の割合。
25. 自身の地域社会では異なった背景を持つ人々がうまく関係を築いているという考えにとても賛成，もしくはどちらかと言うと賛成という人の割合。

資料6　ソーシャル・キャピタル研究を概観する

（島根大学国際シンポジウム講演資料より）

## ソーシャル・キャピタルとは

## ソーシャル・キャピタルとは何か?

人間関係の「質」，及び「量」を表現しうる概念である

## この概念を理解するために知っておくべきこと

ソーシャル・キャピタルとは…

•…社会組織に属する
　(例: 地域社会，自治会)

•…個人の外にあるエコロジカルな特性

•…社会的関係において作られる

## 定義

人々の協調行動を活発にすることによって，社会の効率性を高めることのできる，「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴。

(Putnam, Making Democracy work)

## ソーシャル・キャピタル ： 現在

●社会学，犯罪学，経済学，政治科学，及び社会医学等の広範な学問領域で用いられてきた。

●教育や経済的豊かさ，健康等，社会の様々な領域における成否の説明に用いられている。

●右派・左派問わず政治家は，醸成・強化すべきものとする論調が示されつつある。

## ソーシャル・キャピタルは多次元的である

• 水平的ソーシャル・キャピタル
　–個人間

• 垂直的ソーシャル・キャピタル
　– 個人と組織間

## ソーシャル・キャピタルの次元

- 水平ソーシャル・キャピタル
  - 結束型ソーシャル・キャピタル：組織内部における人と人との同質的な結びつき
  - 橋渡し型ソーシャル・キャピタル：異なる組織間における異質な人や組織の結びつき
- 垂直ソーシャル・キャピタル
  - リンキングソーシャル・キャピタル：権力，社会的地位や富に対するアクセスが異なる社会階層の個人や団体の結びつき

## ソーシャル・キャピタルと健康に関する先行研究

- 世界の様々な地域からの研究で，ソーシャル・キャピタルの水準が高いことと健康の良好さに関係が認められている。
- 用いられてきた健康アウトカムは，主観的な指標から客観的な指標まで多様である。

## 例）ソーシャル・キャピタルと冠動脈疾患に関する研究

- Title: "Low linking social capital as a predictor of coronary heart disease in Sweden: a cohort study of 2.8 million people"

## 目的と方法

- 投票参加率で測定したリンキングソーシャル・キャピタルと冠動脈疾患（3年間のフォローアップ中に生じた最初の入院と定義）の関連を明らかにする。
- スウェーデンの45~74才人口
  - (男性1,358,932人，女性1,446,747人)。
- マルチレベルロジスティック回帰分析を実施。

## 結果

リンキングソーシャル・キャピタルの低い地区は高い地区に比べて，冠動脈疾患の発症が男女それぞれで，個人変数の調整前で 47%・86%，調整後で19%・29%上昇した。

## 例）ソーシャル・キャピタルと死亡リスクに関する研究

- Title: "Linking social capital and mortality in the elderly: a Swedish national cohort study"

## 目的と方法

- 投票参加率で測定したリンキングソーシャル・キャピタルと死亡（2005年7月～2010年12月での死亡）リスクの関連を明らかにする。
- スウェーデンの65才以上人口
  - (男性647,010人，女性870,326人)。
- マルチレベルロジスティック回帰分析を実施。

## 結果

リンキングソーシャル・キャピタルの低い地区は高い地区に比べて，個人変数の調整前で 53%上昇した。年齢，性別，世帯収入，教育，結婚，出生国，及び都会/田舎等の変数で調整後では28%の増加であった。

## 結果

原因疾患別についてみると，呼吸器疾患，2型糖尿病，及び冠動脈疾患で強い関連が認められた。

リンキングソーシャル・キャピタルの低い地区では高い地区に比べて調整後のオッズ比が1.35 (呼吸器疾患), 1.30 (2型糖尿病), 及び1.19 (冠動脈疾患)。

## 資料7　医療ニーズの推計

### 「島根県出雲圏の例」

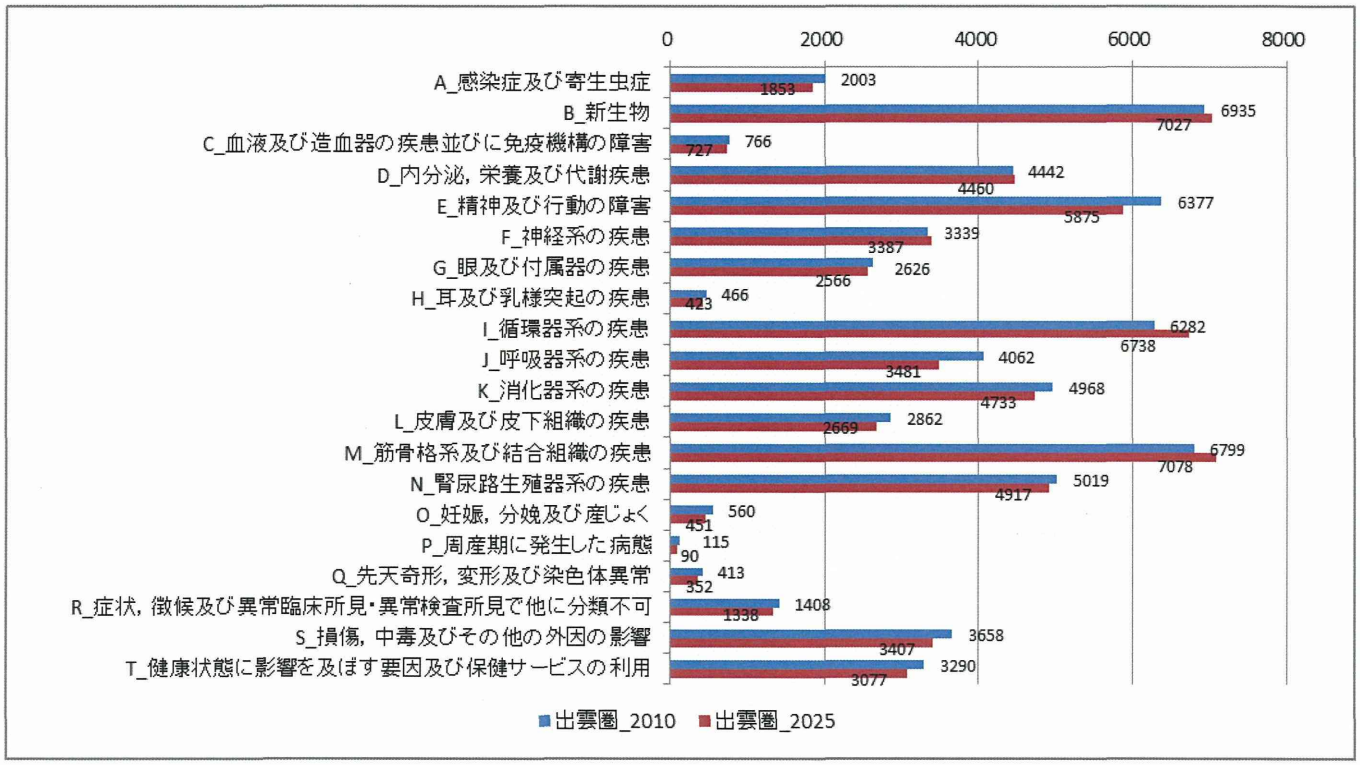


図1　外来患者数（人/月）推計（病院）

（青色は2010年の患者数推計、赤色は2025年の患者数推計）

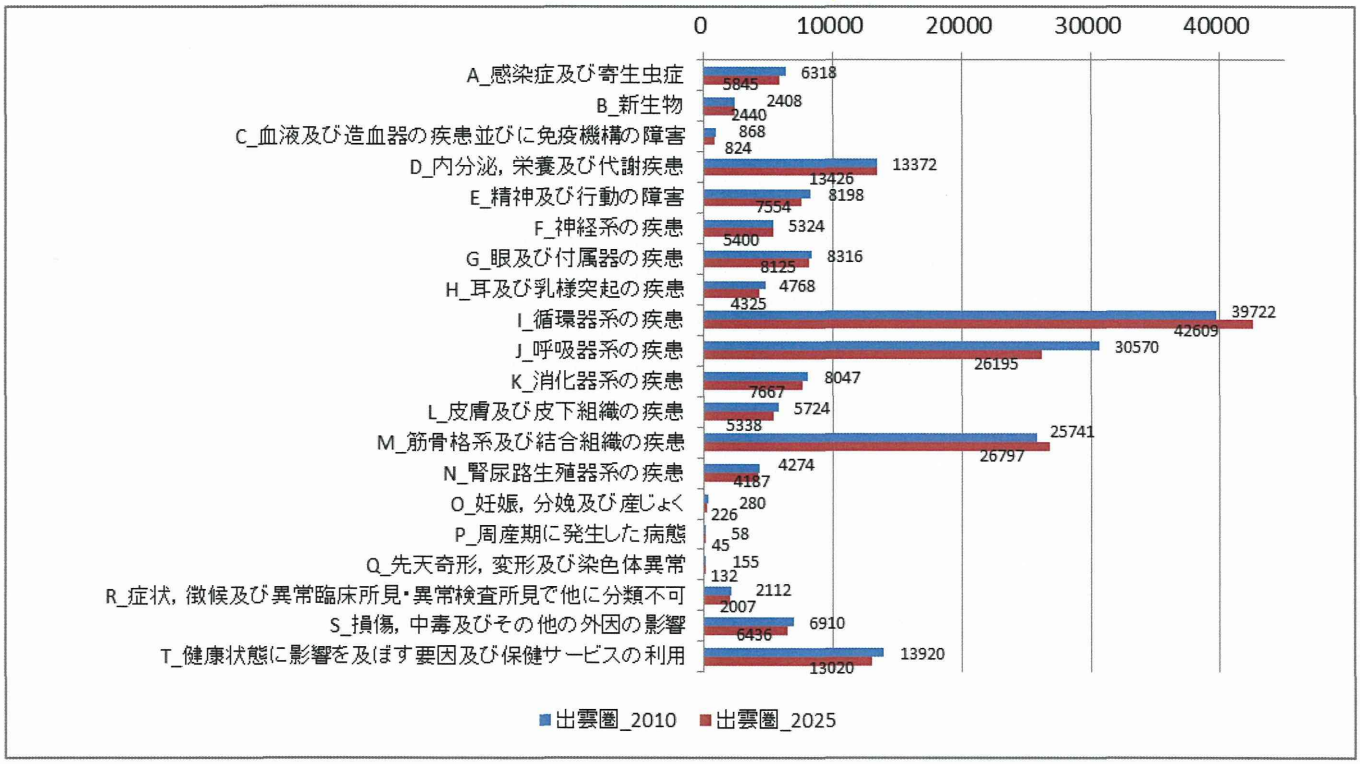


図2　外来患者数（人/月）推計（一般診療所）

（青色は2010年の患者数推計、赤色は2025年の患者数推計）